

政務活動費実績報告書

令和2年3月27日

久慈市議会議長 様

会派名 政風会

代表者名 小柳正人

幹事長 小倉利之

政務活動費の交付に関する条例第8条の規定により、次のとおり報告します。

使 途	☐ 調査研究費	☒ 研修費	☐ 広報費	☐ 広聴費	☐ 要請・陳情活動費
	☐ 会議費	☐ 資料作成費	☐ 資料購入費	☐ 人件費	☐ 事務所費
実施期間	令和3年3月24日 14:00～16:30				
実施場所	鱒ヶ沢町役場～光信公の館				
参加者名	小柳正人、小倉利之、佐々木栄幸、清水崇文、大沢俊光				
実績額	152,570 円 ※ 入湯税を除く 151,820 円で請求予定				
内 容	概要1 日 時：令和2年3月24日、午後2時より4時30分 場 所：鱒ヶ沢町会議室、光信公の館 歓迎者：平田護町長、渋谷悦男議長（議長は見送りまで） 担 当：教育課 総括学芸員 中田書矢 様 政策推進課 課長 千島裕二 様 観光商工課 主幹 保村一介 様 議会事務局 事務局長 工藤 淳 様				
	概要2 日 時：令和2年3月25日、午後2時より4時00分 場 所：八戸市商工会議所～みろく横丁 担 当：常務理事 吉田富三夫 様 地域振興課長 藤島章司 様 株式会社まちづくり八戸 柳沢拓哉 様				

はじめに

政風会一同 5 名は、今年度最後の視察として、平成 30 年 10 月 3 日歴史文化で結ぶ友好協定を締結した青森県鰺ヶ沢町を視察した。

新型コロナウイルスの発症の無い青森方面を視察先に選定していたが前日 23 日夕方、ついに八戸市で 2 名の陽性感染が確認された。それを受けて直前まで小柳代表、小倉幹事長と協議し、先方の事務局及び担当課と緊密な連携と万全な予防体制のもとに出発することに決定した。

青森県鰺ヶ沢町は、久慈出身の武将大浦光信公が居城を構え津軽の礎を仰がれていることを契機に平成 30 年頃から有効協定の打ち合わせを開始し、同年 10 月 3 日に協定に至った友好都市である。

協定に至る以前も、昭和 58 年の日本海中部地震で当市が鰺ヶ沢町へ義援金や救援物資を支援していたことや、平成 16 年頃からは大川目中学校の生徒と鰺ヶ沢中学校の生徒の交流事業も盛んに行われており、市・町の繋がりに極めて有効だった。我々議員としても今回の友好協定を皮切りに相互の交流の足がかりにしたい。

今回、大浦光信公が縁で友好協定に至った事に鑑み、単に歴史文化交流だけではなく、災害支援や交流人口拡大、ふるさと納税の取り組み状況など、意見交換する中で双方の市・町の特徴を生かした発展の足がかりになればと思う。

行政視察の経過、様子

三河交通ジャンボタクシーを利用し、久慈市を 8 時 30 分に出発し、予定時刻の 12 時 10 分に鰺ヶ沢道の駅「湾処」に到着した。14 時 00 分～16 時 30 分まで議会棟会議室にて座学研修。出席者は町長、議長を含め 6 人、政風会⁵6 名であった。

予定時刻の午後 2 時から始まり、進行は鰺ヶ沢町議会事務局長の担当者が行った。最初に渋谷鰺ヶ沢町議会議長と平田町長の歓迎のあいさつがあり、続けて政風会小柳代表より今回の視察団を代表しての挨拶、災害時の支援についての御礼と視察目的について説明した。その後出席者の紹介があり、鰺ヶ沢^町役場と久慈市議会政風会の出席者紹介を行った。その後、下記のとおり①～④に示す通り各担当者がパワーポイントや紙資料を使用し詳細に説明を行った。その後、質問や意見交換を行い座学による研修は予定時刻より 30 分超過した 16 時 30 分に終了した。

説明会の概要について以下に示す。

①津軽再興・回復を目指し、勇将「光信」が津軽に派遣された経緯

(説明：教育課 総括学芸員 中田書矢様)

久慈市と歴史文化で友好協定を結んだ、鰺ヶ沢町には、光信公の館を歴史的なつながりを裏付ける資料が豊富に存在していた。中田氏の説明資料は1458年頃に溯る。光信公の祖父にあたる金沢家光(南部家3男)が小野寺氏との合戦に敗れ自害、養子の家信が久慈に逃れた事から歴史がはじまる。桧山安東氏率いる北海道「安東水軍」への防衛のため下久慈から光信公が種里に入部したのは1491年。以来、種里城を修復し拠る。1502年、大浦城(現弘前城)を築城し嫡男盛信公をおいた。その後、1523年種里八幡宮を建立した。光信公が1526年10月8日没するまで、正に津軽の祖を築いた人物が久慈の人間であったということに触れ、誇りに思うし、改めて当時の行動力、光信公の統率力に感服した。

現在横手市も、遺跡の発掘調査を開始したと聞く。これからも光信公が中を取り持った関係市町村、弘前市、横手市、鰺ヶ沢町、そして久慈市がそれぞれ物心両面の交流を密にしながら、発展していく事を期待したい。

②種里城の復元プロジェクトの概要

大永六年(1526年)10月8日に亡くなった光信公は遺言によって甲冑を着用し、太刀を帯び、ほら貝を腰につけ巽(東南)の方向に向けた立ち姿のまま種里城内に埋葬されたという。まさに、久慈市の方角である。光信公の墓所である御廟所は、歴代藩主や地域住民により今日まで大切に保管されてきた。

種里城は久慈城に非常に地形が似ており、赤石川に面した高台にあり、3方に堀をめぐらした山城で、周辺には武家屋敷や寺院(長勝寺・海蔵寺)があった。昭和63年(1988年)から始まった城跡の発掘調査によって、光信公時代の建物跡や、数多くの出土品が見つかった。平成14年(2002年)、「津軽氏城跡」(種里城跡、堀越城跡、弘前城跡)として国史跡に指定された。現在資料館「光信公の館」を含む一帯は史跡公園として整備されており、発掘建物の平面展示などを見学する事が出来る。 光信公の館開館日：5月1日～10月31日 (9時～17時)

(提言)

現在、横手市も、遺跡の発掘調査を開始したと聞く。久慈市でも遺跡調査まで実施済みであり、七城の会発足を契機に当市でも久慈城の再建準備や来城者への配慮としてトイレくらい作った方がいいのでは。再建委員会を発足させ準備に取り掛かるべきと考える。

これからも光信公が中を取り持った関係市町村、弘前市、横手市、鱈ヶ沢町、そして久慈市がそれぞれ物心両面の交流を密にしながら、発展していく事を期待したい。

また、光信公の命日は10月8日、久慈直治の命日は9月20日、久慈秋祭りともに交流を語りながら大切にしなければならない日でもある。

③友好協定を契機にした交流人口拡大に向けた今後の取り組み

(説明：政策推進課 課長 千島裕治氏)

津軽藩始祖である大浦光信が結んだ縁を通じて、歴史的につながっている双方の自治体の関係を更に発展させ、歴史文化、災害支援、観光、産業の幅広い分野で連携協力・交流する事業は下記の通り。

令和2年度の交流事業計画

- ・5月31日〈鱈ヶ沢〉ヒラメフェスでの、久慈市物産販売
- ・7月4～5日〈鱈ヶ沢〉肉のフェスティバルでの久慈市物産販売
- ・7月19日〈鱈ヶ沢〉トライアスロン大会へ、久慈市選手招待
- ・9月27日〈久慈市〉あまちゃんマラソン大会へ、鱈ヶ沢町選手招待
- ・10月7日〈鱈ヶ沢〉光信公入部530年記念行事
- ・10月8日〈鱈ヶ沢〉大浦光信公慰霊祭
- ・10月10日～11日〈久慈市〉久慈地方産業祭りで、鱈ヶ沢町物産販売
- ・11月1日〈鱈ヶ沢〉スイーツフェスティバルでの、久慈市物産販売
- ・今後これらを、鱈ヶ沢町「広報あじがさわ」、久慈市「広報くじ」「月刊ダ・なす」へイベント情報相互掲載予定である。

④ふるさと納税の取り組み状況

鱈ヶ沢町 令和元年度寄付の実績 310,465,200 円

平成30年度 318,454,000 円

青森県では、平川町第1位について第2位である。(件数では41,582件でトップ)
2018年度からインターネット市場(ふるナビやふるさとチョイス)を活用したことで件数は1.4倍、金額も2.04倍となった。

(提言)

楽天ふるさと納税の特徴

- ・参入自治体数約800団体であり楽天グループ全体で訴求できるため、ふるさと納税を認知していない人にもヒットしてもらっている。

ふるナビの特徴

- ・高額寄付者が多く、高い寄付単価を獲得できる。
- ・サイト運営元でプロモーションを積極的かつ独自に展開している。

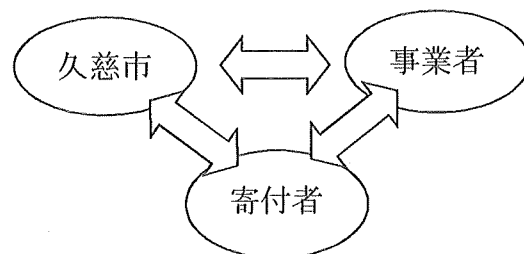
ページの作りこみはファーストビューが大事である。また高額賞品は濃い色を使用。また、一番目に目にとまるフォントは丸ゴシック

ふるさと納税とは・・・自治体への寄付である

- ・魅力1、税金が控除(還付)される。
- ・魅力2、お礼の品が貰える
- ・魅力3、遣い道を指定できる。
- ・魅力4、好きな(応援したい)自治体に寄付できる。

ルールの厳格による影響はあるものの、全ての自治体は同じ状況下であり、地場産品が豊富な地方団体は優位である。加えて、これまでの実績評価が高ければ、ネットでの強みを効果的に生かすことができる。

今後は、久慈市の特徴を題したページ作りや、リピーターの獲得、囲い込み、各事業者様のページの折り込みが重要となる。



寄付・返礼品と一方的なかかわりではなく継続的はかかわりが大切だ



鯨ヶ沢町会議室にて座学、平田町長の歓迎のあいさつ



鯨ヶ沢議会一般質問の演台。作りは久慈市議会に似ている。



鯉ヶ沢町役場前で（右から3人目が渋谷議長）



津軽発祥の地、種里城入口にて



津軽発祥に地 看板



宿泊先 水軍の宿

はじめに

青森県八戸市と久慈市商工会議所は、かつてより相互交流を図ってきた。6市交流事業等議会でも年1回のスポーツ交流も行っており今回の視察も、久慈商工会議所安ヶ平課長を通し実現した。感謝したい。

昨日の視察先である鰺ヶ沢町を8:45に出発し三河ジャンボタクシーで「道の駅わんど」「五所川原市の「立佞武多館」を經由し、津軽道～東北自動車道～みちのく有料道路を国道45号を南下し、予定時刻より1時間早い14:00に研修会場である八戸商工会館に到着した。

お出迎えを頂いた藤島課長はあまりの早い到着に多少の戸惑いもあったようだが1時間繰り上げての研修会スタートとなった。

座学研修のあと株式会社まちづくり八戸の担当より現地「みろく横丁」を案内して頂いた。最初に吉田常務理事の説明があり、藤島課長らが補足説明する形で約1時間の座学であった。説明終了後に質問や意見交換が行われ和やかなムードの中で研修が経過した。視察内容は下記①～⑤に示す通りである。

説明会の概要について以下に示す。

①八戸市について

人口：約23万 圏域人口：63万人

北東北最大の工業都市 全国有数の水産都市 陸・海・空の交通結節点

②新幹線開業に向けた取り組み

- ・平成9年9月：新幹線対策小委員会設立
- ・平成11年9月：東北新幹線八戸駅開業協議会設立
- ・平成12年9月：八戸観光開発プラン推進特別委員会設立
- ・平成13年7月：新幹線八戸駅開業実行委員会設立

「食文化創造部会」

- ・平成14年度

(1) 八戸開業イベント

(2) おんでやんせ八戸キャンペーン

- (3) 北のグルメ都市
- (4) 八戸屋台村「みろく横丁」のオープン
- (5) 八戸らーめん会の設立

③八戸「みろく横丁」の設置経緯

- ・平成12年3月：商工会議所が「八戸観光開発プラン」を提言
- ・平成13年2月：賑わい性のあるグルメ横丁の設置提案
- ・平成13年7月：新幹線八戸駅開業実行委員会設立
- ・平成13年9月：食文化創造部会で「グルメ横丁」
- ・平成14年5月：土地所有者と交渉、六日町、三日町とも承諾
- ・同年同月：屋台村帯広を視察
- ・平成14年7月：六日町「やんせ市」は飲食、三日町「おんで市」は物販を策定
- ・平成14年9月：建設開始
- ・平成14年11月：出店者試食会、物販では採算が取れないどちらも飲食で建設したい意向を受ける。
- ・平成15年1月：オープン26店舗
- ・平成18年～平成31年まで3年ごとにリニューアルオープンを繰り返す。1/3～1/2の店舗が入れ替わる。また、これまで30店舗のオーナーは八戸の中心市街地に独立開業し、活性化や担い手の育成効果に君臨している。

④みろく横丁を研修視察して「提案」

- ・7つのコンセプトは真似するべき
- 1、お客様のおもてなしの目玉として
- 2、中心市街地の活性化対策として
- 3、エコステーション「環境対応型」として
- 4、情報発信基地とする
- 5、若手企業の育成と中心市街地空き店舗対策に貢献
- 6、久慈のオーガニック食材提供と新名物料理、郷土料理を一堂に集め紹介
- 7、地産地消の徹底、コミュニケーションを大切にした3.3坪とする

みろく横丁の運営・管理・概要

- ・ 事業所名：有限会社北のグルメ都市
- ・ 住所：〒039-1121 八戸市卸センター2丁目5-18
- ・ ☎0178-29-0815
- ・ 店舗所在地：八戸市中心市街地三日町25／六日町9
- ・ 設立：平成14年9月（資本金500万円）
- ・ 役員：2名（岩岡徳衛、月舘裕二）
- ・ 構造：店舗26軒、共同水洗トイレ1棟、
- ・ 家賃10万円、共益費4万円
- ・ 支払い出店料、20万円、保証金60万円
- ・ 契約は3年間
- ・ 遠くからも出店希望あり、26店舗、1時審査には70～80店舗。3年毎に10店舗程度が入れ替わる。既存の店も再度申し込む。

※最近、みろく横丁に影響を受けて近隣に店舗が増えてきた傾向にある。

※売り上げは約100万～300万円、平均すれば150万円くらいの売り上げだ。
（夏は200万円UP）

※入込数、八戸市では660万人/年うち、八食センター270万人、みろく横丁は20万人である。

※開店は自由、夜も自由であり各店舗間の競争でもあり、やる気の見せどころである。久慈市のレトロ通りはほとんど閉店している。あじあラーメンは頑張っているが久慈市の屋台村も競争効果を生み出すようなシステムの計画修正が望まれる。このままでは、レトロシャッター通りになりかねない。少し心配である。反面、中心市街地には若手起業者が進出してきており、お互いの相乗効果が屋台村「レトロ通り」にも波及する事を希望する。

以上、報告する。



八戸商工会議所での座学、中央奥が吉田富三夫常務のプレゼン



株式会社まちづくり八戸の柳沢さんの現地説明



八戸「みろく横丁」三日町側「おんで市」での政風会メンバー



八戸「みろく横丁」六日町「やんせ市」を視察する政風会メンバー

領 収 書

No. _____

令和 2 年 3 月 30 日
平成

政風会様

金額	¥	1	5	2	5	7	0
----	---	---	---	---	---	---	---

但し タクシー代・バス代・チケット代・他

3/25 ジャンボタクシー代

上記、正に領収致しました



株式会社 三河交通観光

代表取締役 三 河 博 之

久慈市中央 2 丁目 13 番地

☎ 0194-53-6161 FAX 0194-53-6163



内 訳	
現金	✓
小切手	
振 込	

6580

0232

請 求 書

20 年 3 月 31 日

株式会社 三河交通観光

代表取締役 三 河 博 之

岩手県久慈市中央二丁目 13 番地

電 話 (0194)53-6161

F A X (0194)53-6163

〒 028-8030

岩手県久慈市川崎町1-1

久慈市市議会議員「政風会」

御中

お振込口座

前回御請求額	御 入 金 額	繰 越 額	今回御利用額	今回御請求額
0	0	0	152,570	152,570

毎度ありがとうございます。上記の通り御請求申し上げます。

月 日	チケット番号	乗務員	御 利 用 区 間 / 摘 要	金 額	備 考
3月25日		19	ホテル代 水軍の宿	66,000	13200円×5人
		19	入湯税	750	150円×5人
		19	ジャンボタクシー	80,000	3/24・3/25 2日間
		19	高速料	3,730	九戸IC～浪岡IC
		19	高速料	850	浪岡IC～青森東IC
		19	高速料	860	第2みちのく有料道路
		19	高速料	380	七戸IC～八戸北IC